中間報告書

令和　８年　８月　３１日現在

１　事 業 名　未来への設計図　～フードロス対策から始まる私だけのストーリー～

２　実施期間　　令和　８年　５月　７日～令和　９年　２月　２８日

３　事業内容

① 事業の目的・概要

令和7年度、小学校教員用指導教材の制作した経験やアンケート結果をもとに教材をブラッシュアップし、特に、未来を担う子どもたちを育てる、教員が現在抱えている負担を軽減できるようなクオリティを目指して、食品ロスをはじめとした身近な地域課題を題材にした教材を作成。
また、食品ロスという子どもたちにとっても身近なテーマを設定し、そこから子どもたち自身が未来に向かってどう生きるかや、ウェルビーイングについても考えてもらえるような、幅広いテーマを扱った教材にしていく。

② 事業の流れ・進捗状況等

＜実施したこと＞

・ドリル教材の制作・製本並びに教員用指導書の作成
・県内外の小学校・教育委員会等にサンプルデータの配信
→配布先小学校：葦高小学校（倉敷市）、大江小学校（井原市）、長尾小学校（倉敷市）
→県外からの問い合わせ（教材を送る）：岐阜県・石川県で勤められている小学校教員、山口県教育委員会
→出前授業の問い合わせ：学校法人就実学園　就実小学校
配布・問い合わせ目標件数１０件　現在：７件
・すごろく教材の追加印刷

＜今後、実施すること＞

・配布先小学校決定（追加分）
・配布先小学校へ配布し、取り組んでもらう
・要望に応じて教員研修の実施、小学校への授業に参加
→学校法人就実学園　就実小学校への出前授業が確定（9 月 17 日 13:00～14:30）

③　これまでの成果･効果、今年度事業終了後の成果･効果の見込み

現時点で、ドリル教材の製本が完了し、２学期の開始とともに教材の配布が可能。去年に引き続き、出前授業の要望があった学校には、総合的な学習の時間の授業に講師として参加することで、より教員の負担軽減につながることが見込まれる。
また、対象者（小学生）がドリル教材に取り組みことで、以下の成果が期待できる。
⑴ フードロスを身近なものとして考えられ、食の大切さに気付く
⑵ 防災士による「生き抜く防災」の知識を身につけ、さらには日常生活の「食が命を守る」という意識から食品ロス問題の解決を自分事として捉える
⑶ 備中地域と自分自身のより良い未来を切り拓く「ウェルビーイング」の考えを持つことができる
今回、対象校にはドリル内の「フードロス」ページの取り組みを必須条件とし、後のページは指導計画内で可能な限り取り組んでもらう形となる。そのため、評価基準は以下の通りである。

評価指標	評価方法	目標
【対こども】 ①フードロスに関する理解度	フードロスの授業をした日の「帰りの会」でペーパーテストを実施し、その正答率を見る	80%
【対教員】 負担軽減の実態	アンケート 肯定的な意見の割合	85%

④ 課題等

①すごろく教材のブラッシュアップ
→予想よりドリル教材の制作に時間と労力がかかった結果、すごろく教材のブラッシュアップができなかった。しかし、ドリル教材の作成が主要な目的だったため、今回の予算では、昨年度完成したすごろく教材を追加で印刷した。

②AI の活用
→AI ライセンス料や、AI でのキャラクター制作や活用に関する講座に参加するための費用や労力、人件費が予想よりも高かったため、ドリル内のキャラクターデザインを外部のデザイナーに依頼し、そちらへの費用とした。

③新規の動画の制作
→現在、鋭意製作中

4　参考事項・資料

A)　収支精算書見込又は収支（変更）予算書※
（収支（変更）予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した収支（変更）予算書のこと）

B)　ドリル教材 PDF データ（委員の皆様に当日までにご確認いただくために送付します。来年度から販売を予定しているため、このデータを全体公開することは差し控えていただきたいです。）

C)　当日資料（ドリル教材）

D)　事業計画書（加筆修正版）

5　次年度以後の事業展開

次年度の事業展開	事業展開の方向性 （以下のチェック欄のいずれかに「✓」を記入してください。） ☑ 提案団体の自主事業として収益を得て継続・拡大していくことを目指す。 ☐ 地域づくり事業として事業を継続しつつ、次々年度の自主事業化へ備える。 ☐ その他（　　）
	中期的な目標を実現させるための具体的な事業の内容 事業継続に向けては、この取り組みが市町村の教育委員会のモデル事業として位置づけられることを目指す。 今回制作した教材を実際に活用した子どもたちや教員からフィードバックをもらい、適宜修正をした上で、県内の販売から開始。ゆくゆくは全国展開も目指す。 今回制作した教材をサンプルとして、県内の小学校に配布することで、マーケティングを行う。

６　事業計画書変更点

①ドリル制作数を 500 冊から 700 冊へ
②AI を活用する旨の文言の削除
③予算の「AI ライセンス費用」を「キャラクターデザイン料」へ